

北九州市生物多様性戦略2025-2030について

0

生物多様性とは



- 生物多様性とは、多様な自然と生きものが複雑に関りあって存在していること。
- 生物多様性には、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性がある。



- なぜ生物多様性が重要なのか
生物多様性の恵み（生態系サービス）として、
 - ・ 基盤サービス：酸素生成、CO₂の吸収等
 - ・ 供給サービス：食料等
 - ・ 調整サービス：森林等の防災機能
 - ・ 文化的サービス：アクティビティ（釣り・温泉等）を享受しており、生物多様性のバランスが崩れると生活自体が成り立たなくなる。



生物多様性の危機

- 現在、**過去に例を見ないスピードで生物多様性が失われている。**
第6の大量絶滅：過去の自然現象による絶滅の約100～1,000倍の速度
- 生物多様性損失は4つの危機に直面している

1 開発などの人間活動による危機



工場の排水



溶けた船のスクルー

2 自然に対する働きかけの縮小による危機



放棄竹林（小倉南区）

3 人が持ち込むもの、外来種等による危機



オオキンケイギク



アライグマ

4 地球環境の変化による危機



磯焼けの様子

2

生物多様性を取り巻く環境の変化

- この様な背景から、2022年の生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）において、2030年までのミッションとして、生物多様性の損失を止め、反転させて回復軌道に乗せる**「ネイチャーポジティブ（自然再興）」**が世界共通の目標となった。

これまでの生物多様性

自然を守る、壊さない



これからの生物多様性
（ネイチャーポジティブ）

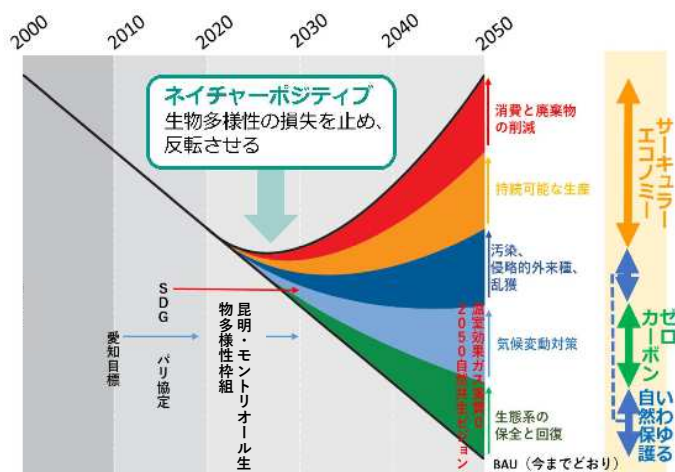
自然を育み、回復させる

- 生物多様性が損なわれると企業活動や人間の生活に大きな影響を及ぼすため、**地球のサステナビリティを左右する重要なファクター**

3

ネイチャーポジティブ（自然再興）

- ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現には、これまでの自然保護だけではなく、「脱炭素」や「資源循環」も含めた対応が必要。
- 自然保護の分野では、最新の研究で健全な生態系を保つには陸と海の30%以上を保全する必要性が示されたため、2030年までに30%以上を保全する30by30目標がCOP15で合意された。



30by30

サステイナブル パイ サステイナブル

30 by 30

COP15で採択された昆明・モントリオール生物多様性枠組の中で示された、2030年までに陸と海の30%以上を保全する新たな世界目標

出典：環境省

30by30目標は、従来の保護地域(国立公園や鳥獣保護区等)に加え、OECM※(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)を含めて目標達成を目指す

※Other effective area-based conservation measures

環境省はOECM設定の推進のため、自然共生サイトの認定制度を令和5年度から開始し、保護地域との重複を除いた部分がOECMとして設定される。

市内の自然共生サイトの認定を進め、生物多様性の保全を推進



北九州市の都市と近接した豊かな自然

特徴①

3つの海

- 響灘 関門海峡 周防灘 -

特徴②

3つの国立・国定公園

- 瀬戸内海国立公園 北九州
国定公園 玄海国定公園 -

特徴③

市域面積の**約4割**が森林

特徴④

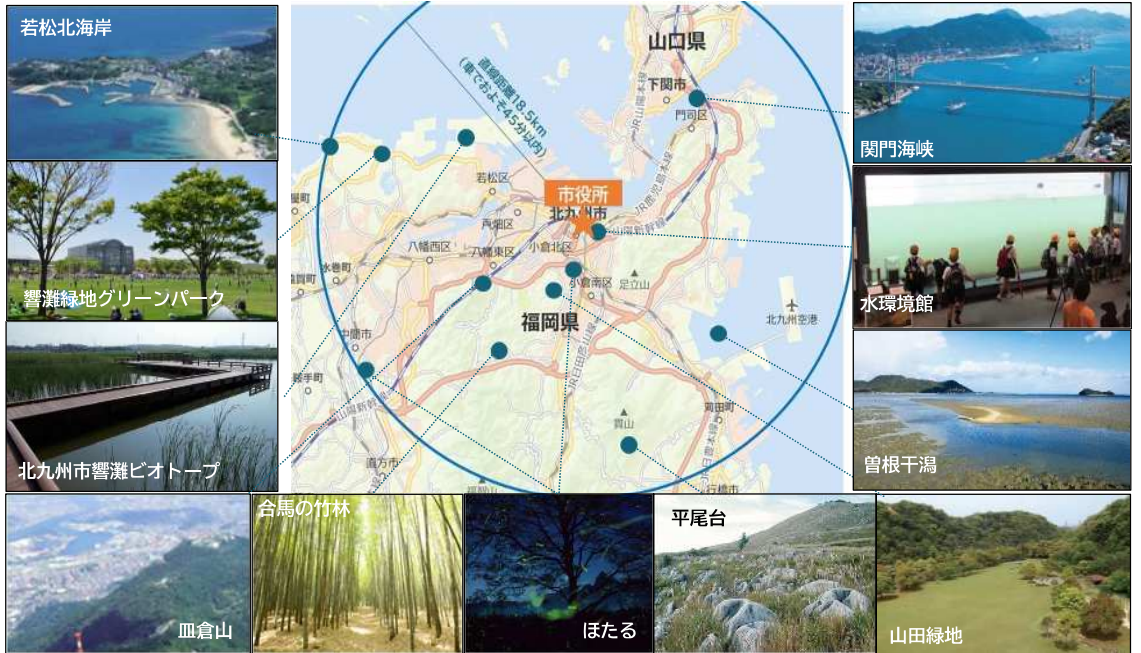
渡り鳥の**十字路**

- 日本列島を縦断
- × 日本-大陸間を横断 -

特徴⑤

希少な生物の**宝庫**

- 平尾台、曽根干潟、響灘ビオトープ -



都市にあふれる“豊かで面白い”自然

6

北九州市が目指す姿

**Kitakyushu
Action!**
舞台中、音楽、お笑いあり

北九州市 = 都市に近接した豊かな自然

アーバンネイチャー北九州

アーバンネイチャーで世界の潮流をリード！

アーバン
ネイチャー

ネイチャー
ポジティブ

都市と自然との共生

(都市部におけるネイチャーポジティブの「グローバルモデル」)

世界をリードするサステナブルシティを実現！！

全国初のセンターを中心に新戦略を強力に推進！

■ 戦略推進の活動拠点として、

新たに「**ネイチャーポジティブセンター（※）**」を設置

※「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律（令和6年法律第18号）」に基づく、「地域生物多様性増進活動支援センター」として位置づけ

■ 生物多様性に関する **10の公共施設** をセンターとして束ね、 **面的に取組を推進**

豊富な施設を活かして「施設群」として指定【全国初！】

ネイチャーポジティブセンター構成施設

響灘ビオトープ、いのちのたび博物館、水環境館、ほたる館、香月・黒川ほたる館、山田緑地、響灘グリーンパーク、平尾台自然の郷、到津の森公園、環境ミュージアム

8

ネイチャーポジティブセンター（響灘ビオトープ）

- 廃棄物処分場跡地に整備された、**自然創成**となる**国内最大級のビオトープ**を有している。（面積41ha：**東京ドーム約9個分**）
- 湿地や淡水池、草原等多様な環境が育まれ、約800種の生きものが生息している。
- OECMとして国連のデータベースに登録されている。（**福岡県で初**）



生息する希少な生きもの（代表例）



ベッコウトンボ（絶滅危惧種）



チュウヒ（絶滅危惧種）

ネイチャーポジティブセンター（山田緑地）

- およそ140ヘクタールの広域公園。第二次世界大戦から戦後にかけて弾薬庫として使用され、立ち入りが制限されたため、開発行為の手が加わらず森の環境が保たれてきた。
- 絶滅危惧種のカスミサンショウウオが生息するほか、ゲンジボタルとヘイケボタルが同時に観察できる貴重なスポット。
- 紫川水系のカゼトゲタナゴの系統保全にも取り組んでいる。



10

ネイチャーポジティブセンター（北九州市ほたる館）

- ホタルをはじめとした水辺の生き物やその生息環境について学習、調査研究が行える施設
- 北九州市の河川と池沼の環境を再現した4メートル大型生態水槽をはじめ、約60種類の水辺の生き物を自然に近い環境で展示し、生き物本来の生活の様子を観察できる



11

市内企業の取り組み事例

株式会社ブリヂストン 北九州工場 @響灘ビオトープ

ジャンボタニシの駆除活動

北九州工場では、定期的に、響灘ビオトープ内に生息する外来種であるジャンボタニシを駆除し、響灘ビオトープの水生生物や希少種を守る取組などを実施。

株式会社ギラヴァンツ北九州 @曽根干潟

曽根干潟の清掃活動

ギラヴァンツ北九州では、曽根東小学校が実施する「曽根干潟クリーン作戦」に参加し、地域の方々と、曽根干潟の保全活動に取り組んでいる。

九州電力株式会社 北九州支店 @響灘ビオトープ

ビオトープの清掃活動

北九州支店では、響灘ビオトープとの協働により、渡り鳥が飛来する営巣地を整備する、砂礫地の除草作業ボランティア活動を実施。



- 北九州市は、企業がネイチャーポジティブに取り組むフィールドが豊富
- 今後、ネットワークで、「活動」と「主体」のマッチングを実施

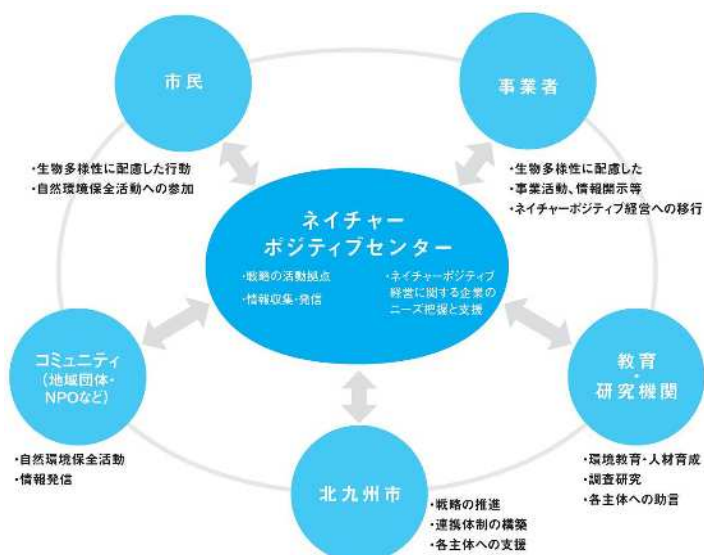
12

「オール北九州」でネイチャーポジティブを推進！

- 産学官民が連携して取り組むため、

新たに「ネイチャーポジティブネットワーク」を構築予定

※今年11月に発足予定



市民、コミュニティ、企業、行政など、ステークホルダーが緊密に連携し、
「オール北九州」で
ネイチャーポジティブに取り組む

サステナブルシティの実現

13